

令和3年度第42回
東京都トラック協会ドライバー・コンテスト
学科競技
問題

【出題内容】

- I 法規：問1～問40
- II 構造機能：問41～問60
- III 運転常識：問61～問80

競技上の注意

この競技は、運転者に必要な関係法規やプロとしての一般的な知識について試問するものです。出題される法令問題は、令和3年5月1日時点の現行の法令に基づき作成しています。

また、この試問は、11トン・4トン・2トン・女性及びトレーラ部門共通となっています。

注意事項

- ① 問題は全部で80問です。
- ② **制限時間は60分です。**
- ③ 解答はすべて別紙の解答用紙に、「正しい」と思うものについて、解答用紙の同じ問番号の枠内に「○」印を、「誤っている」と思うものについては「×」印を下記要領により記載すること。（四肢選択式問題は「○」のみの記載でよい）なお、解答にあたっては、各選択肢に記載されている事項以外は考慮しないものとする。

《例》

【四肢択一問題】

【○×正誤式問題】

問	選択肢			
	1	2	3	4
1		○		
2			○	

問	答
12	○
13	×
14	×

- ④ 解答用紙には、鉛筆を使用し、誤って記載した場合は、跡の残らないように消しゴムで消すこと。
- ⑤ 解答用紙には必ず競技部門、受験番号、氏名を記載すること。
- ⑥ **この問題用紙は競技開始の合図があるまで開けないこと。**
- ⑦ 印刷の不鮮明なところがあれば、着座のまま静かに手を挙げて係員に尋ねること。ただし、問題の内容に触れるものには回答しない。
- ⑧ 問題用紙に、メモ、計算等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は選手がそのまま持ち帰ること。
- ⑨ 競技開始45分経過後から退席することが出来る。退席可能時間になった際に、係員より告知を行う。退席する場合、解答用紙を壇上へ提出し、他の選手のじゃまにならないよう静かに退席すること。なお、一度退席した者については、競技時間中の再入室は認めない。
- ⑩ 終了時間については、終了5分前に係員より予告を行う。

令和3年5月8日（土）
於 東京都トラック総合会館

「いま」を支える。「みらい」をつくる。

I 法規（40問）

【4肢択一式問題】

問1. 横断歩道接近時の運転に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答紙の該当する欄に○を付けなさい。

- 1 前方の渋滞等により横断歩道の中で停止するおそれがある場合は、横断歩道に入ってはならない。
- 2 横断歩道において、歩行者が横断しているかいないか明らかでない場合は、そのまま進むことができる。
- 3 横断歩道を横断しようとする歩行者がいるときは、その手前で停止できるような速度を落として走行しなければならない。
- 4 横断歩道の手前30メートル以内は追越しは禁止だが、追い抜きはできる。

問2. 車両の交通方法等についての次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

- 1 車両は、歩道と車道の区別のない道路を通行する場合その他の場合において、歩行者の側方を通過するときは、これとの間に安全な間隔を保ち、又は徐行しなければならない。
- 2 車両は、車両通行帯の設けられた道路において、道路標識等により法令に規定する通行の区分と異なる通行の区分が指定されているときは、当該通行の区分に従い、当該車両通行帯を通行しなければならない。
- 3 車両は、道路の中央から左の部分の幅員が6メートルに満たない道路において、他の車両を追い越そうとするとき（道路の中央から右の部分を見とおすことができ、かつ、反対の方向からの交通を妨げるおそれがない場合に限るものとし、道路標識等により追越しのため右側部分にはみ出して通行することが禁止されている場合を除く。）は、道路の中央から右の部分にその全部又は一部をはみ出して通行することができる。
- 4 一般乗合旅客自動車運送事業者による路線定期運行の用に供する自動車（以下「路線バス等」という。）の優先通行帯であることが道路標識等により表示されている車両通行帯が設けられている道路においては、自動車（「路線バスを除く。）は、後方から路線バス等が接近してきた場合であっても、その路線バス等の正常な運行に支障を及ぼさない限り、当該車両通行帯を通行することができる。

問3. 次の記述のうち、一般貨物自動車運送事業者の運転者（以下「運転者」という。）が遵守しなければならない事項として誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

- 1 運転者は、乗務を開始しようとするとき、乗務前及び乗務後の点呼のいずれも対面で行うことができない乗務の途中及び乗務を終了したときは、法令に規定する点呼を受け、事業者に所定の事項について報告をすること。
- 2 法令の定めにより運行指示書の作成を要する運行の途中において、運行の経路並びに主な経過地における発車及び到着の日時に変更が生じた場合に、運転者は携行している運行指示書に当該変更の内容を記載すること。
- 3 運転者は、事業用自動車に乗務したときは、①乗務した事業用自動車の自動車登録番号その他の当該事業用自動車を識別できる表示、②乗務の開始及び終了の地点及び日時並びに主な経過地点及び乗務した距離等所定の事項を「乗務等の記録」（法令に規定する運行記録計に記録する場合は除く。）に記録すること。
- 4 運転者は、乗務を終了して他の運転者と交替するときは、交替する運転者に対し、当該乗務に係る事業用自動車、道路及び運行の状況について通告すること。この場合において、交替して乗務する運転者は、当該通告を受け、当該事業用自動車の制動装置、走行装置その他の重要な装置の機能について点検の必要性があると認められる場合には、これを点検すること。

問4. 道路交通法に定める自動車の法定速度についての次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○をつけなさい。

- 1 貨物自動車運送事業の用に供する車両総重量5,995キログラムの自動車の最高速度は、道路標識等により最高速度が指定されていない片側一車線の一般道路においては、時速60キロメートルである。
- 2 貨物自動車運送事業の用に供する車両総重量7,520キログラムの自動車は、法令の規定によりその速度を減ずる場合及び危険を防止するためやむを得ない場合を除き、道路標識等により自動車の最低速度が指定されていない区間の高速自動車国道の本線車道（政令で定めるものを除く。）における最低速度は、時速50キロメートルである。
- 3 貨物自動車運送事業の用に供する車両総重量7,950キログラム、最大積載量4,500キログラムであって乗車定員2名の自動車の最高速度は、道路標識等により最高速度が指定されていない高速自動車国道の本線車道（政令で定めているものを除く。）においては、時速80キロメートルである。
- 4 貨物自動車運送事業の用に供する車両総重量が4,995キログラムの自動車が、故障した車両総重量1,500キログラムの普通自動車をロープでけん引する場合の最高速度は、道路標識等により最高速度が指定されていない一般道路においては、時速40キロメートルである。

【○×正誤式問題】

次の問5から問40までの設問について、解答用紙の該当する欄に正しいものについては○を、誤っているものについては×を付けなさい。

問5. 右の図の標識は、自転車専用道路であることを示している。



問6. 右の図の標識がある場合、自動車だけでなく自転車も通行することはできない。



問7. 右の図の標識のある場所では、車両が停車することが可能であることを示している。



問8. 右の図の標識のある場所は、道幅が2.2メートルであることを示している。



問9. 右の図の標識のある場所は、学校や幼稚園、保育園があることを示している。



問10. 右の図の標識のある場所は、駐停車ができないことを示している。



問11. 車両は、道路外に出るため左折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄り、かつ、徐行しなければならない。

問12. 道路交通法においては、車両総重量8トン、最大積載量5トンの自動車は大型自動車に該当する。

- 問13. 妨害運転（あおり運転）によって高速自動車国道等において他の自動車を停止させ、その他道路における著しい交通の危険を生じさせた場合、3年以下の懲役または50万円以下の罰金が科される。
- 問14. 車両（緊急自動車を除く。）は、交差点とその附近で緊急自動車が接近してきたときは、交差点内の左側に寄って一時停止し、緊急自動車の通行を妨げないようにする。
- 問15. 同一方向に進行しながら進路を変えるときなど、合図に係る行為をしないにもかかわらず合図を出した場合は違反行為となる。
- 問16. 交通整理の行なわれていない交差点で、交差道路が優先道路であるときは、徐行する。
- 問17. 駐車した場合、車の右側に3.5メートル以上の余地がなくなる場所での駐車はできないが、貨物の積卸しを行なう場合で運転者がすぐに運転できるときは駐車できる。
- 問18. 「放置車両」とは、違法駐車と認められる場合における車両であって、その運転者がこれを離れて直ちに運転することができない状態にあるものをいう。
- 問19. 昼間でも、視界が高速道路では200メートル以下、その他の場所では100メートル以下であるような暗い場所を走行するときは、前照灯などを点灯しなければならない。
- 問20. 車両は、一方通行路を通行するときでも、道路の中央から左の部分を通行しなければならない。
- 問21. 右左折や進路変更等をするために合図を出したときは、それらの行為が終わるまで、合図を継続しなければならない。

- 問22. 道路交通法における自動車の種類は、大型自動車、中型自動車、準中型自動車、普通自動車、大型特殊自動車、大型自動二輪車、普通自動二輪車、小型特殊自動車に区分されている。
- 問23. 「道路標示」とは、道路の交通に関し、規制又は指示を表示する標示板をいう。
- 問24. 環状交差点で右折や左折をするときは徐行しなければならないが、直進する場合には徐行しなくてもよい。
- 問25. 許可を受けて分割できない積載制限を超える貨物を輸送する場合は、昼間は0.3メートル平方の白い布を、夜間は赤色の灯火又は反射器を見やすい場所につける必要がある。
- 問26. 踏切とその手前の側端から30メートル以内は追越しが禁止されている。
- 問27. 貨物自動車に積載できる貨物の長さの限度は、自動車の長さにその長さの十分の一の長さを加えたものである。
- 問28. 右左折しようとするときは、その行為をしようとする時の3秒前のときに合図しなければならない。
- 問29. 通行する車両通行帯が進路変更の禁止を表示する道路標示で区画されていても、緊急自動車に進路を譲るためであれば進路変更することができる。
- 問30. 呼気1リットルにつき0.15ミリグラム以上の酒気帯び運転は処罰の対象となるが、それに達しない場合であっても、酒気を帯びて運転すれば違反となる。
- 問31. 徐行の道路標識等がない場合でも、上り坂の頂上附近は徐行しなければならない。

- 問32. 仮免許練習標識を付けた車に対しては、幅寄せや割り込みを禁止する保護義務はない。
- 問33. 貨物の積卸しのための停止で10分以内のものは駐車にはならない。
- 問34. 標識等で速度が指定されていない自動車専用道路での貨物自動車の最高速度は、最大積載量や車両総重量にかかわらず、すべて時速60キロメートルである。
- 問35. 道路の左側部分に設けられた安全地帯の側方を通過する場合は、安全地帯に歩行者がいなくても徐行しなければならない。
- 問36. 車を後退させるときは、シートベルトの着用は免除される。
- 問37. 助手席同乗者が不用意にドアを開けたために交通の危険が生じた場合は、運転者には責任がない。
- 問38. 中型免許で大型自動車を運転した場合は、大型自動車等無資格運転となる。
- 問39. 車庫などの自動車専用の出入り口から5メートル以内の場所は駐車禁止である。
- 問40. 勾配がゆるやかであっても、下り坂を通行するときには徐行しなければならない。

Ⅱ 構造機能（20問）

【4肢択一式問題】

問41. 道路運送車両の保安基準及びその細目を定める告示についての次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

- 1 停止表示器材は、夜間200メートルの距離から走行用前照灯で照射した場合にその反射光を照射位置から確認できるものであることなど告示で定める基準に適合するものでなければならない。
- 2 自動車（被牽引自動車を除く。）には、警音器の警報音発生装置の音が、連続するものであり、かつ、音の大きさ及び音色が一定なものである警音器を備えなければならない。
- 3 自動車（二輪自動車等を除く。）の空気入ゴムタイヤの接地部は滑り止めを施したものであり、滑り止めの溝は、空気入ゴムタイヤの接地部の全幅にわたり滑り止めのために施されている凹部（サイピング、プラットフォーム及びウエア・インジケータの部分を除く。）のいずれの部分においても1.6ミリメートル以上の深さを有すること。
- 4 貨物の運送の用に供する普通自動車であって、車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上のものの原動機には、自動車が時速100キロメートルを超えて走行しないよう燃料の供給を調整し、かつ、自動車の速度の制御を円滑に行うことができるものとして、告示で定める基準に適合する速度抑制装置を備えなければならない。

問42. 事業用貨物自動車の点検整備に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

- 1 定期点検整備は、毎年、3月と12月の2回実施すればよい。
- 2 日常点検は、一日一回、その運行の開始前に実施しなければならない。
- 3 点検整備記録簿は当該貨物自動車に備え置き、点検又は整備をしたときは遅滞なく必要事項を記載しなければならない。
- 4 日常点検は、国土交通省令で定める技術上の基準に基づいて実施しなければならないが、この基準とは「自動車点検基準」のことである。

問43. 制動灯に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

- 1 自動車（最高速度20キロメートル毎時未満の軽自動車及び小型特殊自動車を除く。）の後面の両側には、制動灯を備えなければならない。ただし、二輪自動車等の一部の自動車には、制動灯を後面に1個備えればよい。
- 2 制動灯は、灯器が損傷し、又はレンズ面が著しく汚損しているものでないこと。
- 3 制動灯の灯火の色は、赤色であること。
- 4 制動灯は、昼間にその後方200メートルの距離から点灯を確認できるものであり、かつ、その照射光線は、他の交通を妨げないものであること。

問44. 後部反射器に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

ア 後部反射器（被牽引自動車に備えるものを除く。）の反射部は、三角形以外の形状であること。

イ 後部反射器は、夜間にその後方100メートルの距離から走行用前照灯で照射した場合に、その反射光を照射位置から確認できるものであること。

ウ 後部反射器による反射光の色は、赤色であること。

エ 後部反射器は、反射器が損傷し、又は反射面が著しく汚損しているものではないこと。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

【○×正誤式問題】

次の問 45 から問 60 までの設問について、解答用紙の該当する欄に正しいものについては○を、誤っているものについては×を付けなさい。

- 問45. 自動車運送事業の用に供する自動車の使用者又はこれらの自動車を運行する者は、1日1回、運行の開始前において、国土交通省令で定める技術上の基準により自動車を点検しなければならない。
- 問46. 自動車（二輪自動車、側車付二輪自動車及び被牽引自動車を除く。）の前面ガラスは、運転者が交通状況を確認するために必要な視野の範囲に係る部分における可視光線の透過率が75パーセント以上のものであること。
- 問47. 道路運送車両法における「道路運送車両」とは、自動車をいい、原動機付自転車及び軽車両は含まれない。
- 問48. 道路運送車両の保安基準でいう「軸重」とは、自動車の車両中心線に垂直な1メートルの間隔を有する2平行鉛直面間に中心のあるすべての車輪の輪荷重の総和をいう。
- 問49. 自動車の長さ、幅、高さの測定については、積車状態において告示で定める方法により測定しなければならない。
- 問50. 方向指示器は、方向の指示を表示する方向200メートル（法令で定める一部の方向指示器を除く）の位置から、昼間において点灯を確認できるものであり、かつ、その照射光線は、他の交通を妨げないものであること。
- 問51. 車幅灯は、夜間にその前方300メートルの距離から点灯を確認できるものであり、かつ、その照射光線は、他の交通を妨げないものであること。
- 問52. 自動車（被牽引自動車を除く。）は、騒音を著しく発しないものとして、構造、騒音の大きさ等に関し告示で定める基準に適合するものでなければならない。

- 問53. 走行用前照灯は、その全てを同時に照射したときに、夜間にその前方80メートルの距離にある交通上の障害物を確認できる性能を有すること。
- 問54. タイヤの溝の深さの点検は、毎回の運行前に義務づけられている。
- 問55. 非常信号用具は、夜間100メートルの距離から確認できる赤色の灯光を発するものであること。
- 問56. すべての非常点滅表示灯は、同時に作動する構造であること。
- 問57. 番号灯は、夜間後方50メートルの距離から自動車登録番号標、臨時運行許可番号標、回送運行許可番号標又は車両番号標の数字等の表示を確認できるものであること。
- 問58. 自動車は、告示で定める方法により測定した場合において、幅2.8メートルを超えてはならない。
- 問59. 車両総重量8トン以上の自動車は、毎回の運行前にディスク・ホイールの取付状態を点検しなければならない。
- 問60. 貨物の運送の用に供する自動車（告示で定める自動車等を除く）で、車両総重量3.5トンを超えるものの前面には、告示で定める基準に適合する前部潜り込み防止装置を備えなければならない。

Ⅲ 運転常識（20問）

【4肢択一式問題】

問61. 踏切の通行に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

ア 踏切内では、変速しないで、発進したときの低速ギアのまま一気に通過する。

イ 踏切内では、対向車との接触を防ぐために、できるだけ左寄りを通行する。

ウ 踏切を通過しようとするときは、その直前（停止線があるときは、その直前）で一時停止をし、窓を開けるなどして自分の目と耳で左右の安全を確かめる。

エ 前の車に続いて通過するときは、一時停止はしなくてもよいが、安全確認は行わなければならない。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問 62. 緊急時の措置に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

- 1 走行中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかりと握り、急ブレーキを避け、断続的にブレーキを踏んで停止する。
- 2 むかるみなどで車輪が空回りするときは、古毛布、砂利などがあれば、それを滑り止めに使うと効果的である。
- 3 後輪が横滑りを始めたときは、ブレーキはかけず、まずアクセルを緩め、同時にハンドルで車の向きを立て直す。
- 4 後輪が右に滑ったときは、ハンドルを左に切って車の向きを立て直す。

問63. 坂道・カーブの走行に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

ア 下り坂では低速のギアを用い、エンジンブレーキを活用する。

イ 近くに待避所のない坂道ですれ違いが難しいときは、上り坂での発進が難しいため、下りの車が上りの車に道を譲る。

ウ カーブを走行するときは、カーブに入ってから十分にスピードを落とす。

エ カーブを通行するとき、車の内輪差のため、後車輪が路肩からはみ出すおそれがあるので注意する。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問 64. 車の停止距離等に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄に○を付けなさい。

ア 停止距離とは、空走距離と制動距離を合わせた距離をいう。

イ 制動距離とは、運転者が危険を感じてからブレーキを踏み、ブレーキが実際に効き始めるまでの間に車が走る距離をいう。

ウ 路面が濡れていると、制動距離が短くなる。

エ 運転者が疲れていると、空走距離が長くなる。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

【○×正誤式問題】

次の問65から問80までの設問について、解答用紙の該当する欄に正しいものについては○を、誤っているものについては×を付けなさい。

- 問65. 大型自動車や中型自動車は、普通自動車に比べ、運転席の位置が高く、見下ろす形になり、車間距離が実際より長く感じられるため、車間距離が短くなりやすい。
- 問66. 走行中、自分の車と対向車のライトで、道路の中央付近の歩行者が見えなくなることをフェード現象という。
- 問67. ワイパーが故障していても、雨が降っていなければ走行してよい。
- 問68. 水のたまった道路を走行する際、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが水の上を滑走する現象のことを、スタンディングウェーブ現象という。
- 問69. クリープ現象とは、アクセルペダルを踏まなくても、車両がゆっくり動くことである。
- 問70. 信号機のある踏切は、青信号なら一時停止しなくてもよい。
- 問71. 踏切の手前で警報器が鳴り出した際は急いで踏切を通過する。
- 問72. シートベルトを備えている自動車を運転するときは、運転者自身がこれを着用するとともに、助手席や後部座席の同乗者にもこれを着用させなければならない。
- 問73. 片側が転落のおそれのあるがけになっている道路で、安全な行き違いができないときは、がけと反対側の車が一時停止をして道をゆずる。

- 問74. 車を運転中に大地震が発生し、やむを得ず道路上に置いて避難するときは、エンジンキーは付けたままとするか運転席などの車内の分かりやすい場所に置き、窓は閉じ、ドアはロックする。
- 問75. 高速運転に慣れた後で一般道路へ出たときは、速度を出し過ぎになりがちである。
- 問76. 幼児、児童等の乗降のために停車している通学通園バスの側方を通過するときは、徐行して安全を確かめる。
- 問77. 霧のときは、中心線やガードレールや前の車の尾灯を目安にし、速度を落として運転する。
- 問78. 夜間は速度感がにぶって、速度が遅くなりやすい。
- 問79. 事業用自動車に貨物を積載するときは、偏荷重が生じないように積載するとともに、運搬中の荷崩れ等による落下を防止するため、貨物にロープ又はシートを掛けるなど必要な措置を講ずる。
- 問80. 高速でトンネルに入ると視力が急激に低下するので、あらかじめ手前で速度を落とす。